

事業所名	子ども支援ルーム 美（ちゅら）ぐくる				支援プログラム(放課後等デイサービス)		作成日	令和 7 年	3 月	1 日
法人（事業所）理念	◆私たちは、法令遵守を徹底し、健全な事業経営に努めます。◆私たちは、共に働く仲間を大切にし、支え合い、共に成長できる温かい職場をつくります。◆私たちは、感謝の心、素直な心、思いやりの心、謙虚な心で役割・使命を果たします。◆私たちは、相手の話に耳を傾け、相手の立場になって考え、相手の気持ちに寄り添い、真摯に向き合います。◆私たちは、常に知識と技術の向上を心がけ、自己研鑽に努めます。									
支援方針	「共に過ごし、共に学び、共に考え、共に悩み、共に喜び、共に育つ」。子どもの発達の過程や特性等に応じた発達上のニーズを理解し、子ども本人や保護者の意向、気持ちに寄り添った支援をおこないます。個々の課題（困りごと）の解決と自立に向けて、子どもの育ちの充実を図ります。 (1)自分らしく過ごせる場であるという安心・安全な土台の上で、生活に必要な知識やスキルを身につけます。 (2)日常生活や社会生活を円滑に営めるよう、生きる力と自立心を育てます。 (3)人とのかわりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして自分や周りの人を大切にすることを育てます。 (4)様々な遊びや多様な活動の機会を通じて成功体験を積み、自己肯定感や自信、主体性を育てます。 (5)地域の活動や交流の機会を通じ、子どもと地域のつながりや社会参加を目指した支援を行います。									
営業時間	9 時		0 分から		18 時		0 分まで		送迎実施の有無	（あり） なし
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	・心身の健康状態の把握と管理（検温や視診を通じて健康観察を行う）。 ・手洗いや消毒など自分でできることを習慣づけ、健康維持や予防行動を身につける。 ・ラジオ体操（健康生活の基本となる体づくりを目指す）。 ・基本的な生活習慣の確立（食事、睡眠、あいさつ、身のまわりのことなど）。 ・整理、整頓、片付け等を自主的にできるようにする。（片付けの取り組みに対して苦手意識や抵抗感を減らせるよう、タイマーを使って片付けの時間を区切ったり、片付けをゲームやチャレンジ感覚で楽しく進めていく。また収納ボックスにラベルやイラストを貼ることで物の把握や何をどこに片づけるかを視覚的に示す）。 ・生活の中で、分かりやすい表示や構造への配慮、遊びや活動に適した場所や空間をつくるなど環境設定をする。								
	運動・感覚	・からだを主体的に動かすことで、運動能力や感覚の向上を図る。日常生活に必要な基本動作、運動機能、バランスや距離の感覚、力の強弱などを身につける。 （戸外遊び、ボール遊び、平均台、一本橋、バランスボール、なわとび、フープ、伝承遊びなど）。 ・様々な素材に手や足で直接触れ、基礎感覚を育む（感触遊びや素材遊び・・・小麦粉、片栗粉、パン粉など食材を使用したあそび。粘土、スライム、ゴム、砂、水、泡あそびなど）。 ・製作活動で、道具や素材の使い方を学び、作る過程を工夫しながらイメージを形にしていける力を育む。 ・歌や楽器に触れて音に親しみをもち、自己表現の方法を知る。またお友達と音やリズムを合わせたり曲を演奏する中で、協調性を育む。 ・感覚の特性（ある特定の感覚に関して極端に過敏さや鈍感さがある）に応じ、環境調整や個別支援を行う。								
	認知・行動	・『やることリスト』を作り、スケジュールや視覚的な手がかりを通じて行動の見通しをもてるようにする。 ・生活や遊びの中で数や量、形、色に関心をもち、全身を使った遊びや手先を使った遊びを通じて空間認知能力を育む。（えのぐあそび、図形タングラム、空間や形を表す言葉を使った会話や問いかけ、鬼ごっこやアスレチック、折り紙、ペーパークラフト、パズル、ブロック、積み木遊びなど）。 ・聞くちからを身につけ、話を聞いて行動につなげていけるようにする（カードゲーム、中外ゲームやしっぽとりゲーム、マス鬼ごっこなどルールのあるレクリエーションなど）。 ・お当番活動を設け、始めりの会・終わりの会のあいさつや号令、集団活動時のリーダーなど、役割をもつことで自信や自立心を育て自己肯定感を高めていけるようにする。 ・散歩や所外活動において、交通ルールや公共の場におけるルールやマナーを身につける。 ・宿題や課題のサポート（行動や気持ちの切りかえ、時間配分など、見通しをもって行動するちからを身につける）。								
	言語 コミュニケーション	・言葉を覚えて理解する、自分のおもいや考えを言葉で伝える方法を学ぶ、話の聞き方を学ぶ、相手の話を聞いて理解することなど、特性に合わせた働きかけで言葉の発達を促す。 ・ＳＳＴワークシートの活用し、自分の気持ちや他者の気持ちを言語化する。“自分だったらこう思う！”という気持ちを、文字にしたり言葉にすることで、自己への理解を深める。 ・遊びを通して発語を引き出し、言葉の意味や物との関連を学び語理解力を高める（ジェスチャーゲームや伝言ゲームなどのレクリエーション。しりとり、カルタ、ごっこ遊びなど）。 ・ことば以外に、表情や目線、身振り・手振り、声のトーンや大きさ、相手との距離の取り方など、それらを用いて自分の意思を伝える手段を身につける。 ・ひらがなことばカードを用い、語彙力を養う。気持ちカードを取り入れた視覚支援で、気持ちへの関心を高めて『自分の気持ち』や『他者の気持ち』に気づくことができるようにする。 ・活動の最後に、自分の思いや考えをお友達と伝え合う“今日の振り返り”時間を設定する。言葉での表現が難しい場合は、職員が気持ちを代弁するなど個々に応じて支援する。								
	人間関係 社会性	・子どもの話や訴えに耳を傾け、おもいや願いを受け止めることで信頼関係を構築する。 ・自分の感情や行動をコントロールする力を育む（感情が不安定になっているときや周りからの働きかけを受け入れることが難しいときには、子どもの気持ちに寄り添った受容的・共感的関わりで、安心できる環境をつくる。感情や行動の対処法と一緒に考えていく）。 ・小集団での生活や遊びを通じ、順番交代、自分の役割、ルールを守るなどを身につける。 ・多様な体験活動を通じて他者と関わる経験を積み、人、場所、時間等を意識して行動することができるようになる（場面や状況を考えて行動したり、相手や場面に応じた言葉を使うなど、社会的なマナーを身につける）。								
家族支援		・定期的な面談の実施。 ・きょうだいへの相談援助。 ・生活や進路における困りごと、子どもとの関わり方等に関する相談・助言等。 ・地域資源や制度に関する情報提供。				移行支援		・進路や就労への移行にむけて、本人や家族、関係機関との連携。 ・支援会議を開催し移行へ向けて計画を立て、関係機関で共通理解を図る。 ・移行先との調整や情報共有、支援体制づくり。 ・共生社会の形成に向けた取り組み。		
地域支援・地域連携		・公共施設の利用や地域行事への参加を通じて、地域との交流を促進する。 ・生活する地域で必要な支援を受けることができるよう、学校や市町村、医療機関などの関係機関と連携を図る。 ・相談支援事業所や併用事業所との連携、情報共有。				職員の質の向上		・研修の受講(虐待防止、身体拘束、ＢＣＰ、感染症対策、安全計画に基づく研修など)、そのほか外部研修への参加や事業所内研修の実施。 ・ケース会議やミーティング等。		
主な行事等		・誕生会 ・季節の行事やイベントの実施 ・製作（季節や月のイベントに応じた造形活動） ・所外活動（社会見学、自然とのふれあい、イベントへの参加、まちたんけん、お買い物体験、外食体験、乗り物乗車体験など） ・クッキング								